

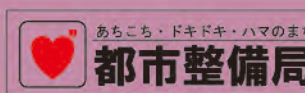
# ヨコハマ市民まち普請事業 整備事例集 vol.5

平成21年度選考整備提案

ふ-しん【普請】「普く請う(あまねくこう)」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民のみなさんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足感を高めることに繋がっていきます。「まち普請」には市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

ヨコハマ市民まち普請事業  
整備事例集 vol.5  
[平成21年度選考整備提案 整備事例集]

- 発行 平成23年10月  
横浜市都市整備局都市づくり部地域まちづくり課  
〒231-0017 横浜市中区港町1-1 TEL 045-671-2679 FAX 045-663-8641
- 編集・デザイン 特定非営利活動法人 アクションポード横浜



仲間づくりは、まちづくり  
汗と笑顔のまち普請！

ヨコハマ人・まち

身近なまちづくりに役立つ無料のメールマガジン「ヨコハマ人・まち」を読みませんか？  
メールマガジンのご案内：<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiikimachi/machibushin/>



1 事業のあらまし

2 整備事例1 西柴団地商店街の空き店舗を利用した地域活性化プラン

3 整備事例2 地域に根ざす技術を活かしふるさと大道の風景をつくる

4 整備事例3 鶴見川大曲、花と緑と水の広場づくり

5 整備事例4 地域ぐるみで地域開放型コミュニティ・サロンをつくる

6 整備事例5 樹林と湧水を生かしたホテルの里山づくり

平成21年度 横浜市地域まちづくり推進委員会  
ヨコハマ市民まち普請事業部会

- 卯月 盛夫 早稲田大学教授(建築・都市デザイン)
- 河上 牧子 慶應義塾大学産業研究所共同研究員(都市政策・コミュニティ計画)
- 木下 勇 千葉大学教授(緑や子どもの環境のデザイン)
- 嶋田 昌子 NPO法人横浜シティガイド協会理事(まちづくりNPO)
- 末永 浩之 公募市民
- 轟木 ひろ子 国際草の根交流センター 事務局次長
- 名和田 是彦 法政大学教授(公共哲学・コミュニティ論)
- 吉田 正臣 公募市民

事業のあらまし

この「ヨコハマ市民まち普請事業」とは、市民の発意とアイデアによる身近な地域の公共空間や私有地などの整備に関するまちづくりの提案を募集し、2回にわたる公開コンテストにより選考された提案に対して、最高500万円の整備助成金を交付する制度です。整備場所又はその近くの在住者、事業者または土地・建物の所有者の、3人以上のグループであれば誰でも応募することができ、平成18年度から整備が始まり、平成22年度に整備を終えた5事業を加えると、平成22年度までに25事業の整備が完了しました。

今回ご紹介するのは、平成21年度に選考され、平成22年度末(平成23年3月)までに整備を完了した5つの事業です。平成21年度に実施した1次コンテストには、8件の提案の応募があり、この8件の提案すべてが1次コンテストを通過しました。そして、この8件の提案に加え、前年度1次コンテスト免除となっていた1件の提案を加えて、9件の提案(内1件は辞退)が2次コンテストに参加し、5件が整備対象提案に選考されました。

この事例集では、この5つの提案のコンテストの参加に至った経緯、提案が完成するまでに、提案グループのメンバーや地域の方々が積み重ねてきた試行錯誤や工夫の様子、完成した施設などを紹介します。また、整備を進める上で行政や専門家の支援を受けつつ、共有した思いを実現するために相談や調整を繰り返し行い、粘り強く推進した事業の経過をご報告させていただきます。自分たちのまちへの思いを自ら形にしていける「ヨコハマ市民まち普請事業」の事例、みなさんの身近なまちづくりの参考にしてください。そして、まち普請事業にご参加ください。

整備事例1

西柴団地商店街の空き店舗を利用した地域活性化プラン



さくら茶屋入口

「いつでも、だれもが、好きな時間に行けて食事やおしゃべりが出来る場所を作りたい。」という思いから、西柴団地で活動してきた福祉サービスの仲間たちが《西柴団地を愛する会》を立ち上げ、平成20年度のまち普請に応募しました。そして、見事合格、事業がスタートしました。

計画作りでは、全世帯の住民にアンケート調査を行い、270名から、期待や要望、経営に対する危惧などの意見をいただきました。商店街の活性化を望む声、遠くへ出かけなくても軽食や喫茶が楽しめる場所、お総菜が買える、パーティや会合が出来る場所などの要望がありました。また、教えた

い、習いたいという方もいて、この調査の結果を見て、私たちの考えているお店は地域のニーズにマッチしていると確信したそうです。

お店づくりには、多くの方々にご協力をいただきました。大家さんには、既存設備の撤去を、商店街の方々には、アンケートの回収をお店でお声掛けしていただきました。また、内装の工事では、ペンキ塗りは自分たちで行い、テーブル・椅子も、店内の装飾も、ボランティアの方々とスタッフで作りました。キッチンの器具なども多くの方々からご提供いただいたものだそうです。

現在、開店から1周年、曜日ごとに変化する日替わり定食が大人気。1パック100円のお惣菜もちょうど食べられる量で好評だそうです。レンタルボックスの売り上げも順調、ここへきて何とか黒字を実現できました。が、人件費は0だそうです。それでもスタッフの方々は、朝塾に始まりカフェの運営、そして、季節のイベント、趣味の教室や西柴夜話まで、様々な事業を毎日元気いっぱいに展開しています。

さくら茶屋の並びの八百屋さんには、「さくら茶屋ができてから、人通りが増えて、売りが上がった」として、「商店街としても、非常に喜んでますよ」とおっしゃっていました。ぜひ一度、お越しください。狙い目は、午後のおしゃべりタイムだそう。

西柴団地商店街の空き店舗を利用した地域活性化プラン(金沢区)整備概要

整備主体: 私たちのふるさと「西柴団地を愛する会」  
 整備場所: 金沢区西柴町3丁目  
 整備内容: カフェ店舗(店内内装、厨房、テラスデッキ、椅子、テーブル、レンタルボックス)  
 竣工時期: 平成22年5月  
 access map



デッキでくつろぐお客様



レンタルBOX

店内の様子

事業の流れ(平成21年度)



## 整備事例2

地域に根ざす技術を活かしふるさと  
大道の風景をつくる



掘り上がった井戸

横浜市立大道小学校では、20年にわたり、侍従川での清掃活動や自然体験活動、また、葦船の乗船会など、子どもたちの環境教育の活動を、地域と一体となって行ってきました。活動当初につくったトンボ池には、裏山からの湧水や井戸からの水が豊富にありましたが、最近、水の量が減ってきて、環境

が変わってしまっていました。そこでみんなで新たに井戸を掘り、このトンボ池や田畑の水量を確保しようというのが今回の事業です。井戸を掘るに当たっては、この地域の井戸を掘ってきた、伝統技術「上総掘り」を継承しようという目的もありました。井戸掘りは、とにかく大変だったそ

うです。掘削前に、上総掘りで使う竹ひごを準備、そして、専門家の指導で掘り始めたましたが、準備した竹ひごが使えなくなるなどハプニング続出、試行錯誤の繰り返しでした。結局、1本目の井戸はうまくいかず、場所を変え、もう一本掘ることになったそうです。この、失敗した井戸、「学びの井戸」として残っています。

そして、2本目の井戸、十分な水(毎分7リットル)が確保出来たのは、何と48メートル掘りすんだところだそうです。

井戸の水は、掘り上がった井戸のそばにある、生徒がお世話をしている、田んぼやハス田、畑で利用され、そして奥のトンボ池へと送られます。そこで水車を回し、トンボやメダカ、生きものの棲みかを作ります。ここには、活動する方々の「ふるさと大道の風景を残したい」という思いが見事に実現していました。

会長さんは、「まち普請事業があったから、井戸を掘ることが出来た。場所が途中で変わるなど、時間もかかったが、実現できたのはとても嬉しいです。井戸は学校に引き継ぎ、子どもたちをバックアップしながら維持していきたい。」とおっしゃっていました。

今度は井戸掘りの指導ができるのでは？の声に、「とんでもない。もうこりごりです。」ととてもうれしそうに話されていました。

隣接する護岸には、大規模災害時の緊急物資搬入を目的とする防災船着き場が建設されましたが、この建設作業に伴う河川管理者側の工事との日程などの調整がつかず、2次コンテストへの参加を、1年先送りしました。また、安全管理上の問題で、区役所や国土交通省、地元市民を巻き込んだ組織作りなども行いました。

完了時のオープニング式典には、林市長にもいらしていただき、地域の方々や子どもたちと一緒にサルビアの植栽を行っていただきました。

その後、事業の計画づくりのときに連携したことがきっかけとなり、養護学校の生徒たちに川の魅力を感じてもらう体験学習を、鶴見川で活動する市民団体と協働で毎年行っているそうです。また、月例の環境保全活動に参加したり、防災船着き場を使ったイベントと連携するなどの試みも行われています。多くの方々に利用される広場となりました。

このように普段から、市民や行政、市民団体が連携して活用しているこの広場、大規模災害時にも、多くの方々

## トンボ池と水車



田んぼ・ハス田と学びの井戸

入口の手作り看板

## 地域に根ざす技術を活かしふるさと 大道の風景をつくる(金沢区) 整備概要

整備主体:ふるさと大道の風景をつくる会  
整備場所:金沢区大道町2丁目  
整備内容:井戸を中心とする水循環ネットワーク(井戸、揚水ポンプ、四阿、水車、モニュメント、ベンチ、トンボ池護岸、せせらぎ)  
竣工時期:平成23年3月  
access map



## 整備事例3

鶴見川大曲、  
花と緑と水の広場づくり



大曲広場全景

今回広場を設置した駒岡地区は、かつては、川の恵みを活かし、川、丘、水田を成長の場としてきましたが、近年、大規模マンションの増加などもあり、地域の住民のコミュニケーションの場が必要となってきていました。子どもたちの日常生活では、世代間交流や身近な自然に親しむ機会が激減し、また、

お年寄りの増加も続いています。鶴見川の曲には、広い河川敷と豊かな自然が残っています。この大曲に広場を整備し、これまで作ってきた花畑を広げたりしながら、交流の場としていきたいのがこの提案でした。整備をするにあたって、予定地のすぐ下流側で行なわれている、市民団体

による河川敷の環境保全や水辺の体験活動・クリーンアップ作戦、そして、ハゼ釣り大会などにも参加し、川の魅力にふれるなどしながら計画づくりを進めました。また、整備後の川での活動についても計画段階から検討したそうです。

隣接する護岸には、大規模災害時の緊急物資搬入を目的とする防災船着き場が建設されましたが、この建設作業に伴う河川管理者側の工事との日程などの調整がつかず、2次コンテストへの参加を、1年先送りしました。また、安全管理上の問題で、区役所や国土交通省、地元市民を巻き込んだ組織作りなども行いました。

完了時のオープニング式典には、林市長にもいらしていただき、地域の方々や子どもたちと一緒にサルビアの植栽を行っていただきました。

その後、事業の計画づくりのときに連携したことがきっかけとなり、養護学校の生徒たちに川の魅力を感じてもらう体験学習を、鶴見川で活動する市民団体と協働で毎年行っているそうです。また、月例の環境保全活動に参加したり、防災船着き場を使ったイベントと連携するなどの試みも行われています。多くの方々に利用される広場となりました。

このように普段から、市民や行政、市民団体が連携して活用しているこの広場、大規模災害時にも、多くの方々

により、活動の拠点として、有効に使われることでしょう。このような場所、みなさんの周りにはありますか？是非参考にしてください。



大曲広場開場式



大曲広場全景

広場づくり 花畑植栽作業

## 鶴見川大曲、花と緑と水の 広場づくり(鶴見区) 整備概要

整備主体:駒岡連合町会大曲広場整備実行委員会  
整備場所:鶴見区駒岡5丁目地先  
整備内容:多目的広場、花畑、ピオトップ、利用案内・安全管理のための看板、ベンチ  
竣工時期:平成22年7月  
access map



## 整備事例4

地域ぐるみで地域開放型コミュニティ・サロンをつくる



完成したサロンの店内

「サロン」への思いやアイデアが出されていきました。そして、事業を進める実行委員会には、地域ぐるみで支えてもらえるように自治会長や商店会関係者にも入ってもらったそうです。

この鶴見ふれあい館、お店に入るとまずトイレの看板が目飛び込んできます。「トイレだけの利用でもよいので、ぜひさまざまな方々に利用してもらいたいと考え、ドーンとトイレはこちらという案内板を店内に付けました。」とのこと。

計画途中で隣へ出店することが決まった、障がい者の就労支援施設のパン工房「麦の家」との連携も実現しました。一部接客業務を麦の家の知的障がい者の方々に担っていただいています。これは、接客やコミュニケーションをとるトレーニングにもなるそうです。

もとは宝石店にする予定だった明るい店内の壁際を、レンタルスペースとして貸し出し物産販売をしたり、貸しギヤラリーを設置したりしています。サロンは、貸しスペースとしての利用もできるそうです。最近では、ブラジルの方の「お誕生会」としての利用があり、ブラジルの人たちの文化に触れることが出来たそうです。また地域の町内会婦人部の、人形劇の勉強会なども利用されているとのこと。「こうやって色々な方たちと連携し、使っていただけるサロンにしたいですね。」と、スタッフの方が今後の抱負を話されていました。

お店の入口の看板



レンタルスペース



コミュニティ・サロン入り口

## 地域ぐるみで地域開放型コミュニティ・サロンをつくる(鶴見区)

整備概要

整備主体：地域開放型サロンを豊岡につくる会  
 整備場所：鶴見区豊岡町142番地  
 整備内容：コミュニティサロン(店内内装、厨房機器、展示棚、椅子、テーブル)  
 竣工時期：平成22年7月

access map



## 整備事例5

樹林と湧水を生かした  
ホタルの里山づくり



整備された水路

息できることを目指した、湧水を活かした瀬と淵のある蛇行型の水路づくりなど多くの作業を行いました。

もともと不法投棄が多く、荒れた山で「ゴミが多い」「蚊が多い」という苦情が近所から出されてきましたが、整備後は、ゴミもなくなり、散策する人も増えてきました。今は、年4回の自然観察会を開催しているそうです。また、隣の中学校や高校とも連携して、中学校の生徒が、ホタルのえさになるカワニナを育てたり、自然観察会を行ったりしています。校長先生は、「理科離れが進む中、自然とふれあう機会がそばにあつて大変喜ばしい」とおっしゃっていました。

この「ホタルの里」の整備に参加したメンバーの一人は、「もとはジャングルのようにでしたが、地権者のご厚意と地元の人たちの努力で一般の人が入れるようになりました。とても大変でしたが、多くの人たちが参加してくれて、実現できました。参加した人は、延べ1,000人は軽く超えるのではないのでしょうか。」とおっしゃっていました。ホタルの出る時期、ぜひ一度訪ねてみてはいかがでしょうか。



宮沢・蟹沢特別緑地保全地区の市民が積極的に関わりながら進める保全育成活動は、宮沢の森愛護会と周辺の地域で活動する水辺愛護会やNPO法人などが集まり、実行委員会を結成してまち普請に応募したところから始まりました。

どまつていた「特別緑地保全地区」で、住民との協働で新たな樹林地の保全育成活動を行おうというものです。整備作業は、専門家の指導を仰ぎながら、近隣の学校や自治会の方々に参加してもらいながら進めました。樹林地の間伐、その間伐材を再利用した土留や散策路の整備、そして、ホタルが生

## 樹林と湧水を活かしたホタルの里山づくり(瀬谷区)

整備概要

整備主体：緑地保全地区を核にしたホタルの里山づくり実行委員会  
 整備場所：瀬谷区宮沢3丁目  
 整備内容：樹林地整備(間伐、下草刈り、土留、水路、石積み、標識・掲示板)  
 竣工時期：平成23年3月  
 access map



整備前の森



整備後の森



入り口の手作り標識